



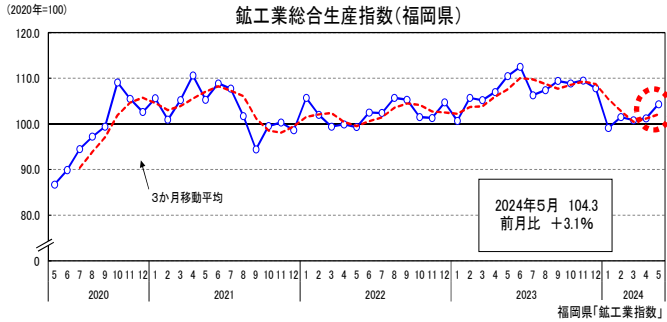
ふくおかの経済

令和6年7月号

生産

持ち直しの動きがみられる。

5月の生産指数は、輸送機械工業、汎用・生産用機械工業などが上昇したため、2か月連続で前月を上回りました。

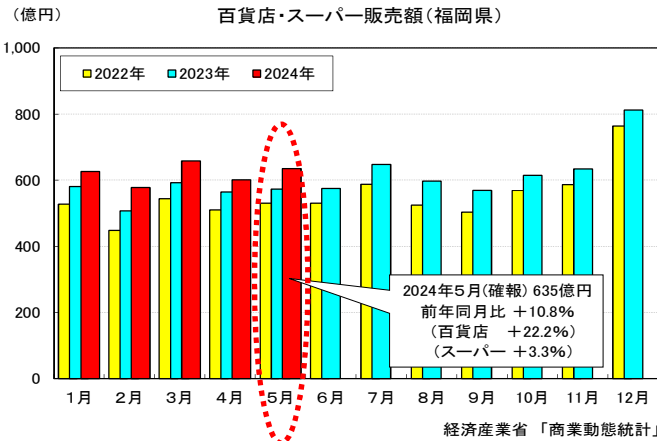


鉱工業生産指数は、2020年の生産水準を100として、その変化を表しています。

消費

緩やかに回復している。

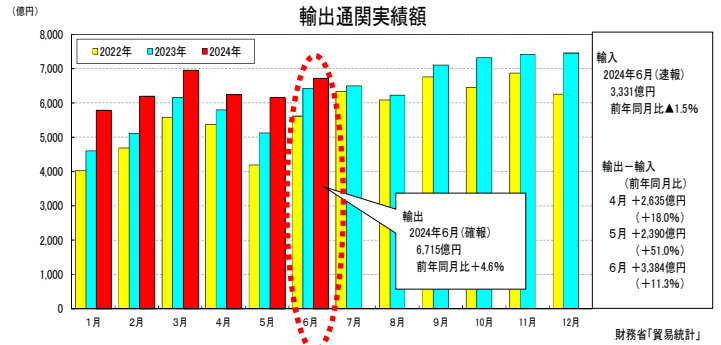
5月の百貨店・スーパー販売額は、32か月連続で前年同月を上回りました。



貿易

輸出額は、前年同月を上回っている。
輸入額は、前年同月を下回っている。

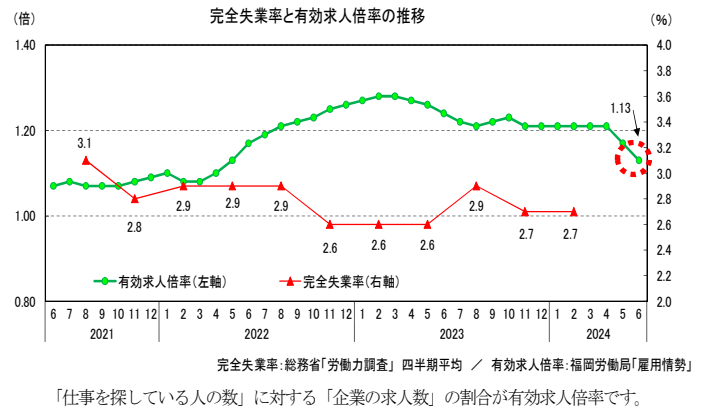
6月の輸出額は、前年同月比+4.6%と前年同月を上回りましたが、輸入額は同▲1.5%と前年同月を下回りました。



雇用

雇用情勢は、改善している。

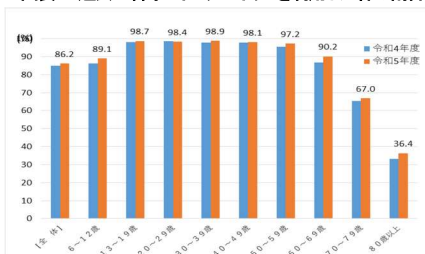
6月の有効求人倍率は1.13倍で、前月を下回った(▲0.04ポイント)ものの、1.00倍を上回っています。



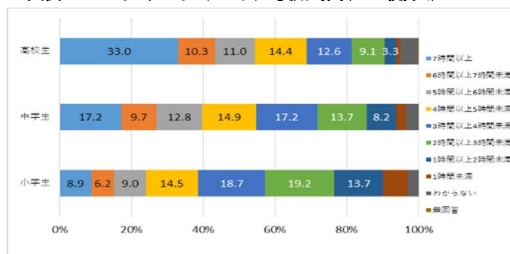
今月のトピック ネット利用の低年齢化がもたらす影響

- インターネットは、私たちの生活に欠かせないものとなっています。総務省「令和5年通信利用動向調査」によると、過去1年間にインターネットを利用した者の割合は13～59歳の各年齢階層では概ね100%となっているのに加え、6歳～12歳でも9割に迫る勢いです(図表1)。1日の平均利用時間は、平日では、小学生は約3時間46分、中学生は約4時間42分、高校生は約6時間14分となっています(図表2)。
- インターネットの長時間利用が進む中、注意すべきこととして、「眼の疲れ」が挙げられます。長時間、ごく近距離で小さな画面を見続けることは、眼に大きな負担をかけます。実際に、SNSや動画視聴を1日3時間以上している割合が全国を上回っている福岡県の小学生は、視力1.0未満の割合が全国より7.9ポイント高くなっています(図表3)。
- 近年、授業での活用が進むなどより身近な存在となりつつあるインターネットですが、長時間の使用には健康面から注意が必要であり、低年齢層に対しては、特にインターネットとの距離感や利用時間について配慮する必要があります。

図表1 過去1年間にインターネットを利用した者の割合



図表2 1日当たりのインターネット使用時間(土日祝除く)



図表3 裸眼視力1.0未満の割合

